

# はたちを迎える皆さま、 おめでとうございます！

個性と能力を活かす

## みんなで作ろう ジェンダー平等社会

### 「ジェンダー平等社会」って どんな社会？

誰もが自分の意思で自由に生き方を選んで活動できることは大変重要なことです。誰もが対等に社会のあらゆる分野に参画し、支えあい、喜びも責任も分かち合う、そんな豊かで活力のある社会が「ジェンダー平等社会」です。



### なぜ「ジェンダー平等社会」をつくるの？

日本国憲法には男女平等がうたわれています。これまで男女平等の実現に向けて男女雇用機会均等法の制定など、さまざまな取組がされてきました。

しかし、まだまだ男女間の格差や不平等を感じることも多いのが現実です。「男だから、女だから」という性別による理由で、役割を押しつけられたり、一人の人間として個性と能力を発揮する機会が制限されてしまうことは、本人にとっても社会にとっても大きな損失です。

少子高齢社会や社会経済情勢の急速な変化に対応していく上でも、誰もが対等なパートナーとして社会のあらゆる分野でいきいきと活動できることが必要です。

私たち一人ひとりの意識の持ち方と行動が鍵となります。はたちを迎える節目の今、周りの皆さんと一緒に考えてみてください。

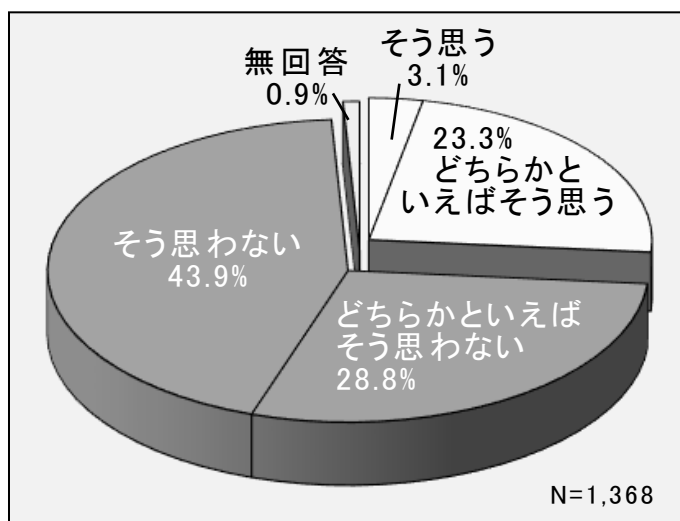
# ジェンダー平等社会を作ろう！

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」（固定的な性別役割分担意識）という考え方について、どう思いますか。

平塚市が令和4年に実施した市民意識調査では、

否定的な意見：72.7%「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」  
肯定的な意見：26.4%「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」

と、否定的な意見が肯定的な意見より3倍近く多い結果となりました。また、否定的な意見は、平成27年調査が55.0%、令和元年調査が67.0%、そして令和4年が72.7%と年々上がっています。



出典：令和4年平塚市男女共同参画に関する市民意識調査

市民意識調査の結果から分かるように、「固定的な性別役割分担意識」に対する否定的な意見は、年々上がってきました。しかし、右データの様に、まだまだ政策・方針決定過程においては男性主導で進められているケースが多く見られ、こうした社会通念や慣行を是正するためには、女性の参画を拡大していくことが必要です。

平成29年に「ひらつか男女共同参画プラン2017」を策定し、男女がともに活躍できる社会を実現するため、市民、事業所、地域、団体と市が力を合わせて様々な施策に取り組んできました。プランの策定から7年が経過し、社会情勢にも様々な変化が生じており、現行プランの進捗状況や令和4年に実施した市民意識調査の結果等を踏まえ、これまでの取組をさらに推進していくため、令和6年、「ひらつか男女共同参画プラン2024」を策定しました。

平塚市議会の女性委員の割合

23.1% (R6.4.1) ※議会局資料

平塚市市審議会等の女性委員の割合

26.5% (R6.3.31) ※行政総務課資料

平塚市自治会における女性会長の割合

9.3% (R6.4.1) ※協働推進課資料

5 ジェンダー平等を実現しよう

